

Jクラブの地域貢献活動に関する一考察—ジェフ千葉の事例を中心に—

A study on Community Services of J-League clubs —Focus on the case of JEF UNITED ICHIHARA CHIBA—

1K03B201-0

山本 博雄

指導教員

主査 作野誠一先生

副査 武藤泰明先生

【緒言】

1993年にJリーグが開幕して15シーズが経過した。一時の観客減少や横浜フリューゲルスなどの危機を乗り越え、当初の10クラブから現在は31クラブにまで拡大している(2007年シーズン時点)。

Jリーグに所属する各Jクラブの主な活動として、まず思い浮かぶのは興行としての試合を提供することである。しかし、Jクラブの活動目的はそれだけではない。「Jリーグ百年構想」を具現化するための義務規定として、Jリーグ規約の第21条②では、「Jクラブはホームタウンにおいて、地域社会と一体となったクラブ作り(社会貢献活動を含む)を行い、サッカーをはじめとするスポーツの普及および振興に努めなければならない」と定められている。つまり、Jクラブは地域社会においてスポーツの普及・振興活動、あるいは様々な社会貢献活動を行うことを使命の一つとしており、それらは試合の提供と並ぶ本来業務と言うことができるのである。本研究では、それらの諸活動を「地域貢献活動」と呼ぶこととした。

このような地域貢献活動は、クラブ経営において入場者数増加などの効果をもたらすことが確認されている。例えば松橋・金子(2007)は、地域貢献活動の実施状況と入場者数の変動が、かなり強い相関を示していることを定量的に実証している。

以上のように、地域貢献活動はJクラブにとって根本的な使命であると同時に、入場者数増加などの効果が期待されるものでもあり、クラブ経営において非常に重要な活動である。しかし、地域貢献活動の根拠となっている「百年構想」は正に「百年」をかけて実現しようとするものであり、多くの課題が残されているはずである。また、個別クラブが具体的にどのような意識を持って地域貢献活動に取り組んでいるのか、という研究が十分に為されているとは言えない。このようなことから本研究では以下の3点を目的とした。

- ・ Jクラブの地域貢献活動の実態を明らかにすること
- ・ 個別事例を取り上げ、クラブ経営において地域貢献活動が果たす役割およびその課題について検討すること
- ・ 以上のことを踏まえて、Jクラブにおける地域貢献活動の現状と課題を考察すること

【研究方法】

本研究では二つの調査から、地域貢献活動の現状と課題を考察することを試みた。第一に、文献・ウェブおよび関連資料による情報収集を行うことで、Jクラブにおける地域貢献活動の実態を把握した。第二に、事例研究としてジェフユナイテッド市原・千葉(以下「ジェフ千葉」)のクラブ職員の方を対象に面接調査を実施した。事前調査により、ジェフ千葉は地域貢献活動を活発に実施していることが予測されたため、そのような事例を取り上げることで考察に向けた示唆が多く得られると考えた。

【結果と考察】

実態調査によって、各クラブが多種多様な形で地域貢献活動を実施していることが確認できた。しかし、「百年構想」と比較すればまだまだ道半ばであり、今後のさらなる活動の充実が望まれる。

次に、ジェフ千葉の面接調査で得られた情報は、以下のようにまとめられる。

- ・ クラブ存続の危機を経て策定された「地域とともに歩むクラブ」というビジョンを受けて、地域貢献活動を活発に行うようになった。
- ・ 地域貢献活動による具体的な効果としては「入場者数増加」、あるいは「スポンサー獲得」ということが期待されている。
- ・ しかし、地域貢献活動による効果は分かりづらく、因果関係を把握することはできていない。
- ・ 今よりさらに活発に実施していきたいが、人材不足やコストなどの問題により、地域貢献活動ばかりに資源を投入できないというジレンマがある。

このようなことから、地域貢献活動は漠然と効果が期待されているものであることが分かる。

今後、Jクラブの地域貢献活動がさらに発展していくためには、地域貢献活動の効果を適正に評価する体制をクラブ内に構築する必要があると考える。毎回の活動を評価してフィードバックすることができれば、効率的に資源を配分して活動できるはずである。あくまでも「地域のため」という気持ちを前提としながらも効率性を求めていくことで、Jクラブと地域社会のお互いにとって有益な活動となり、持続的な発展が可能となるのではないだろうか。